

日本語教育指導者養成プログラム

NC-GP

修士課程 学生募集要領

2012年度(平成24年度)用

国際交流基金

1. プログラム概要

このプログラムは、海外の日本語教育機関等の現職日本語教師もしくは日本語教授経験者を対象として、1年間で日本語教育の修士課程を修了するものであり、将来各国の日本語教育界において指導的立場に立つ人材の養成を目的としています。

また、外国人日本語教師に対し日本語教育の実績を有する「国際交流基金(以下「基金」という。)日本語国際センター」及び政策研究を専門とし文化に関する教育研究機能を有する「政策研究大学院大学」の担当教員による、日本語教育における高度で実践的な学位プログラムです。

2. カリキュラム概要

「言語」、「言語教育」、「社会・文化・地域」、「特定課題研究」の四領域において33単位以上の取得を修了の要件とします。詳細については別紙参照。

3. コース期間

1年(4学期制/各学期と学期の間に一週間程度の休暇期間を設けています。)

秋学期:2012年10月-2013年1月

冬学期:2013年2月-3月

春学期:2013年4月-7月

夏学期:2013年8月-9月

4. 取得学位

修士[日本語教育]

- ・学位の審査は、国際交流基金日本語国際センター及び政策研究大学院大学の担当教員で構成される委員会が行います。
- ・学位取得が認められない者に対しては、国際交流基金日本語国際センターの研修修了証のみが授与される予定です。

5. 申請資格

個人申請ですが、所属機関長の推薦書等が必要です。

このプログラムに申請できる者は、次に掲げる要件を全て満たしていなければなりません。

- (1) 海外の日本語教育関係機関や教育省等の行政機関に属している日本語教師、又は日本語教授歴をもつ者で、所属機関長の申請許可を得ることができること。
- (2) 学士号又はそれに相当する資格を有すること。
- (3) 日本語能力試験N1(旧日本語能力試験1級)程度以上の日本語運用力を持っていること。(日本語能力試験の各レベルの認定の目安は日本語能力試験公式ウェブサイトの「N1～N5:認定の目安」<http://www.jlpt.jp/about/levelsummary.html>を参照。)
- (4) 原則として、2011年(平成23年)12月1日現在、2年以上の日本語教授歴をもつこと。(個人指導やアシスタント・ティーチャーを除く。)
- (5) 原則として、2012年(平成24年)4月1日現在、満44歳以下であること。
- (6) 日本の義務教育(小学校・中学校9年間)を修了した者でないこと。
- (7) 2011年(平成23年)10月から2012年(平成24年)9月までに、国際交流基金、日本の大学等において2か月以上日本語教師研修(海外日本語教師 短期研修を含む。)を受講していないこと。
- (8) 日本と国交のある国の国籍を有すること。ただし、台湾の方も申請可能です。
- (9) 心身ともに健康であること。
- (10) 帰国後も国、地域の日本語教育に貢献することが期待される者。

6. 実施場所・宿舎

- (1) 名称:国際交流基金日本語国際センター
 - (2) 住所:〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和 5-6-36
 - (3) 電話番号:+81-48-834-1180
 - (4) FAX 番号:+81-48-834-1170
- ・ 家族の同伴は認められない。

7. 経費について

合格した者に対しては、国際交流基金日本語国際センターが以下の経費を負担します。

- (1) 居住者の最寄り空港から成田空港への最短距離による順路直行の往復航空券（原則としてディスカウントエコミークラス）
- (2) 出国税・空港利用税
- (3) 日本語国際センター内の宿舎(シングルルーム)
- (4) 研修期間中の食事(一部は現金支給)、研修補助費(来日中の自主研修に必要な公共交通機関の交通費及び通信費等を現物で支給)
- (5) 研究・活動費及び講義に関わる費用(授業料、教材費等)
- (6) 研修参加に必要な期間中の疾病及び傷害に対する海外旅行保険の付与(補償額の上限あり。既往症や歯科治療等は当該保険の適用対象外)及び海外旅行傷害保険料

8. 申請手続

- (1) 申請締切日

2011年(平成23年)12月1日必着で、最寄りの基金海外拠点又は在外日本公館に提出すること。台湾在住の方は、(財)交流協会の台北事務所に提出のこと。

提出された申請書及び関連書類は一切返却いたしません。

- (2) 提出書類

下記の書類を一括して提出すること。

所定の申請書

所属機関長もしくは所属部門長の推薦状1通(厳封)、添付の書式2枚に手書きで記入すること。

以外の者で、本人を評価しうる者(ただし、基金派遣職員及び基金派遣専門家等の基金関係者を除く。)の推薦状1通(厳封)、添付の書式2枚に手書きで記入すること。

成績証明書(出身大学発行の証明書)

A「研究計画書」

プログラム在籍中に行いたいと考えている研究計画を具体的に日本語で書くこと。添付の書式2枚に手書きでまとめること。

B「プログラム修了後の展望と行動計画」

プログラム修了後に自国に戻ってから、各国の日本語教育分野における指導者としてどのようにプログラムで得たものを生かして活躍していきたいか、展望と行動計画を具体的に日本語で書くこと。添付の書式2枚に手書きでまとめること。

日本語能力を証明する書類(申請書13.参照)

9. 申請受理通知

申請書の受理通知を希望する申請者は、はがきに返信用切手を添付の上、住所、氏名、プログラム名、受理通知を希望する旨を記載して、申請書に同封してください。基金海外拠点・在外日本公館の担当者が申請書を受領したことを証するために、署名して返送します。ただし、返信用切手が貼っていないもの、必要事項が記載されていないものは、返送しませんので、ご注意ください。

10. 選考試験・結果発表日程

- (1) 2012年(平成24年)1月末:第1次審査(書類審査)結果発表
上記8.(2)提出書類 ~ を審査対象として用います。

- (2) 2012年(平成24年)2月:第2次審査(筆記試験・口述試験)
審査場所は基金海外拠点等で行う予定であり、詳細については第1次審査合格者に通知します。
- (3) 2012年(平成24年)4月中旬:合格者発表
審査・合否判定については、国際交流基金日本語国際センター及び政策研究大学院大学の担当教員で構成される委員会が行います。

11. 採用予定人数・実績

- (1) 採用予定人数:4名程度
(2) 2011年度(平成23年度)実績 採用4名/応募34名

12. 選考方針

申請資格を満たしている候補者に対して、教育の(1)必要性、(2)有効性、(3)効率性の3つの観点から審査します。

- (1)に関しては、当該国での日本語教授法教育の重要性、また基金の日本語事業計画を実施する上での必要性等の点から評価します。
(2)は申請者個人の当該国日本語教育界におけるポジション、将来の影響力等によって審査します。
(3)に関しては、申請者本人の日本語運用能力、特に修士課程を修めるのに十分な課題研究の遂行能力等から研修の効率性を審査します。

13. 個人情報の取扱い

- (1) 基金及び政策研究大学院大学は、2005年(平成17年)4月1日に施行された「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」(平成15年法律第59号)を遵守し、個人情報を取り扱う際には、適正な収集・利用・管理を行います。基金の個人情報保護への取り組みについては、以下のウェブサイトをご覧ください。
<http://www.jpfi.go.jp/j/privacy/>
- (2) 申請書に記入される連絡先に、基金より他の基金事業についてご案内をお送りすることがあります。
- (3) 採否審査及び事業評価のため、申請書及び推薦書を外部有識者等に提供することがあります。
- (4) 合格した場合、合格者の氏名、国名、性別、所属機関、研修期間等に関する情報を研修実施案内に公表するほか、日本語国際センター事業報告、事業実績、ホームページ等に公表することがあります。また統計資料を作成し国際交流基金年報、事業実績、ホームページ等に掲載するために利用します。
- (5) 事業評価及び学術研究の統計資料作成のため、合格者及び所属機関の情報を利用することがあります。
- (6) 合格者の氏名、国名、性別、生年月日、自宅住所、所属機関、教育期間等に関する情報を以下の機関に提供します。
- ・日本国外務省及び関連各公館(ビザ手配及び参加関連書類送付のため)
 - ・保険会社及びその代理店(海外旅行傷害保険加入のため)
 - ・関係各航空会社(航空券手配のため)
 - ・関係自治体、文化・教育団体(各種文化プログラム実施のため)
 - ・関係国内運送会社、宿泊施設等(研修旅行等の実施のため)
- (7) 出願された方は、上記目的での個人情報の利用に同意したものとみなします。

14. 事業に関する情報の公開

「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」(平成13年法律第140号)に基づく開示請求が基金及び政策研究大学院大学に対してなされた場合には、同法に定める不開示情報を除き、提出された申請書類等は、開示されます。「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」については、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/H13/H13HO140.html>

日本語教育指導者養成プログラム概要

1. 修了 (学位取得) 要件

(1) 単位

単位は、必修科目を含め、33 単位以上取得しなければならない。

(2) 特定課題研究

「特定課題研究」(詳細は3.特定課題研究参照)として7単位を履修し、その成果として「特定課題研究報告」を提出しなければならない。ただし、に述べるように特別な事情が認められる場合は、「特定課題研究論文」の作成が認められる。

特定課題研究報告

学生は、秋・冬学期に「特定課題研究演習」を春学期に「特定課題研究演習」を履修する。最終学期(夏学期)に「特定課題演習」を履修し、その成果を「特定課題研究報告」として提出し、教員からの口頭試問を受けなければならない。この研究は、3.特定課題研究で後述する趣旨と方法で行う。

特定課題研究論文

ただし、所属機関の要請や自国の慣例などから、どうしても論文執筆が必要な者については、上述の「特定課題研究報告」に代えて、「特定課題研究論文」を書くことを希望できる。その場合は、秋学期終了時及び実習後に、日本語運用力、成績、具体的な研究計画等が一定の水準以上であり、論文指導を受けられるかどうかを判定する審査に通らなければならない。この審査に通った者は、最終学期(夏学期)に「特定課題研究論文」を履修し、その成果を「特定課題研究論文」として提出する。

2. 開講予定科目及び履修指導

(1) 開講予定科目

4 領域、計 22 科目 47 単位より履修する。

別紙「日本語教育指導者養成プログラム科目概要」を参考のこと。))

(2) 教員

プログラムのコースデザインやカリキュラム策定、審査等については、連携している 2 機関 (国際交流基金 日本語国際センター及び政策研究大学院大学)の専任教員 (= 担当教員) が当たる。授業は、2 機関の専任教員が中心になって行い、必要に応じ、客員教員を依頼する。

(3) 履修指導

学位取得要件である 33 単位のうち必修科目として 27 単位を履修しなければならない。それ以外の科目については、それぞれの背景や研究テーマに沿った科目の選択を、必要に応じ、担当教員が助言、指導する。

3. 特定課題研究

(1) 趣旨

プログラムの修了生は、帰国後、自国や地域の日本語教育の指導者として活躍することが期待されている。そのため、特定課題研究のテーマも、それに沿って行う実習も、自分の教授技術を向上させるだけでなく、まわりの教師達にも成果を伝えて意味があるものであることが望ましい。

(2) 手順

【来日前】

自国や自分の現場の問題点や課題を踏まえて研究テーマを設定し、実習(必ずしも、教室の中で行うものだけでなく、調査研究などでもよい)の構想を練って自国での協力者や協力機関もできるだけ決めておく。

【秋学期、冬学期】

授業や個別指導を通して研究テーマを深め、実習で行う調査や授業などについての具体的な活動案を計画する。

【春学期】

原則として自国に戻って、約 1 か月実習(調査や授業など)をする。

【春学期、夏学期】

一連の研究計画、実施、結果を、1. (2)に前述したように報告(又は論文)としてまとめる。

4. 事前課題

合格が決まった学生には、以下のような事前課題が課される予定である。

指定された教授法関連テキストの予習。(来日直後に、理解度を確認する試験を行う。)

自国及び自分の地域の日本語教育事情に関する情報収集と整理。

特定課題研究のテーマの設定と協力者、協力機関への打診。

自分の授業を分析するための授業の録画又は録音資料の作成。

その他、教員から指示のあった課題。

日本語教育指導者養成プログラム科目概要

下表は 2011 年度 (平成 23 年度) 日本語教育指導者養成プログラム (修士課程) の科目概要。
最新の科目概要は、政策研究大学院大学の当プログラムの説明を参照。
http://www.grips.ac.jp/jp/cstudents/inter_programs/graduate.html

区分 1: 言語領域 (8 単位以上)

科目名	単位	必修 / 選択	授業概要
日本語表現法演習	2	必修	論文読解、研究発表、レポートや論文の執筆など日本語教育についての研究活動に必要な実践的な日本語運用力を養うことを目的とする。また、本プログラムの研究テーマ発表会、日本語文化研究会を研究活動の実践の機会と捉え、その準備を行う。
日本語学	2	必修	日本語学の分野の中から、談話形成の視点から重要な文法項目をいくつか取り上げ、その意味・機能を考える。また、文法項目をどのように教えるかについて、昨今の研究動向をふまえた上で、具体的な項目を例にあげながら考察する。
日本語学	2	必修	日本語の語彙、文字 (主に漢字)、及び音声の特色について講義し、これらの事項について、自ら考察していけるような能力を身に付けることを目指す。また、日本語教育の基礎となる言語学の基本的な概念、及び研究方法などについて、講義形式で概説する。授業では、クラス内でのディスカッションなども合わせて行い、教授法的な視点にも触れる予定である。
言語学概論	2	必修	日本語教育の基礎とすべき言語学の重要な概念のうち、社会言語学と対照言語学に焦点をあて、研究方法などについて、講義形式で概説するとともに演習を行う。

区分 2: 言語教育領域 (12 単位以上)

科目名	単位	必修 / 選択	授業概要
日本語教育概論	2	必修	本プログラムが日本語教育指導者養成を目指していることから、日本語教育を「ヨコ(地域・世界的広がり)」と「タテ(時代的変遷)」から概観し、自国での自分の果たしうる役割について検討することを目的とする。前半では、地域・世界的広がりの中で自国の日本語教育を観る目を養う。後半では時代的変遷を踏まえて外国語教授法に対する理解を深め言語教育観を養う。
日本語教授法	4	必修	初級レベルの学習者を対象とした教授法を扱い、自分自身の教授活動を振りかえりながら理論と実践が結び付けられるようにする。内容としては、コースデザインの枠組みの確認、教材分析、基本的な教授技術と授業設計、学習成果の評価方法などを演習形式で行い、実践的な知識と技能を獲得する。
日本語教授法	2	選択	中・上級レベルの日本語学習者を主な対象とする指導の内容や方法について、主に四技能別に学ぶ。基本的な知識を整理した上で教材や具体的な指導法、評価方法などを考える。最終的にはその背景にある学習理論をふまえて、自らの授業実践を新たな視点で見直せるようになることを目指す。
第二言語習得研究	2	必修	第一言語(母語)の習得と第二言語(母語以外の言語)の習得はどのように違うか。ある学習者が他の学習者よりも速く学ぶのはなぜか。ある学習項目が他の学習項目より早く習得されるのはなぜか。本講義では、これらの疑問を解明しようとする理論を紹介し、それらの理論を検証するためにどんな研究が行われてきたかを概観する。また、第二言語習得理論の教室への応用についても検討する。さらに、実際の研究論文の講読を通して、データ収集やデータ分析などの研究方法を学び、自らの研究に生かす方法を考える。
言語教育研究法	2	必修	言語教育研究で使用される主な研究方法を知り、各自の研究課題に即した調査法を身につけることを目的とする。具体的には質問紙調査法、インタビュー法、テストを取り上げ、データ収集・処理を演習形式で行う。冬学期末には、各自の帰国実習の計画と調査方法の検討を行う。
教師教育論	2	必修	それぞれの日本語教育環境において教師に求められる資質とその向上のための方法について、特に自らが教師の指導者になるという前提を踏まえて検討する。そのため、授業では、自分自身の経験や考えについての内省活動を行い、それに基づいて参加者間の議論を行う。

区分 3: 社会・文化・地域領域 (6 単位以上)

科目名	単位	必修 / 選択	授業概要
現代日本の社会システム	2	必修	現代日本の社会運営の仕組みと実際を、政治・行政、経済・産業、社会保障など多様な視点から講義する。関係教員によるオムニバス形式の授業になる。
現代日本の教育と文化	2	必修	日本の教育の成果と課題、制度の仕組みと改革の動向などを学ぶとともに、日本人の言語や日常生活への観察を通じて、日本人の基本的な考え方・行動などについて考察する。
異文化コミュニケーション	2	選択	前半では、異文化コミュニケーションで取り扱われる理論面から基本概念を紹介する。特に言語・文化論のかかわりにおいて、コミュニケーションの諸相について考察し、用語・問題群をめぐってディスカッション、コミュニケーション活動等も行う。後半では、研究面と教育面の両方の情報を取り上げ、主として、関連する参考文献の講読と討論、教材分析や日本語教育における実践活動の体験と討論を行う。始めに各自課題を設定してもらい、最後に、各自課題の発表を行う。
言語教育政策研究	2	選択	日本や諸外国における外国語 / 第二言語としての自国語の教育政策・施策の現状について触れながら、今後期待される言語教育や言語環境の整備の在り方について考察する。この講義では、できる限り意見交換や対話を重視した授業としたい。なお、希望や授業の状況に応じて関連機関の訪問も行う予定。
日本事情教育研究	2	選択	日本語教育において、日本や日本人を理解するということは、どのように扱われるべきか、また、どのように位置付けることができるかについて考える。近年、言語教育における「文化」の扱いに関してさまざまな研究がされている。本講義では、それらの研究も参考しつつ、自国の日本語学習者を意識した上で、日本事情を授業でどう展開していくか、具体的に授業を設計する過程を通して考える。

区分 4: 特定課題研究 (7 単位)

科目名	単位	必修 / 選択	授業概要
特定課題研究演習	3	必修	将来、各国で日本語教育における指導者となるために、現場の事情を踏まえた各自の研究テーマを設定し、その課題解決のための全体構想の作成、先行文献の読解などの基礎作業を行う。
特定課題研究演習	2	必修	原則として、自国の現場に戻り、研究テーマに添った実習 (調査研究を含む) を行う。また、その準備や発表のための整理を行う。
特定課題研究演習 *	2	選択必修	先に自ら設定した課題に沿って、理論と実践を結びつけた研究報告を作成する。
特定課題研究論文*			先に自ら設定したテーマについて、特定課題論文を執筆する。(この科目は、原則として、秋学期終了時と実習後の審査で論文作成の実力があると判断された者のみ、履修することができる)

(*) 「特定課題研究演習」又は「特定課題研究論文」いずれか一科目を必ず取らなければならない。

学期構成: 本プログラムは以下のように 4 学期構成で行われる。各科目 (2 単位分) には、その科目が開講される学期に、15 回の授業が準備される。

秋学期 (10 月 ~ 1 月)、冬学期 (2 月、3 月)、春学期 (4 月 ~ 7 月)、夏学期 (8 月、9 月)

日本語教育指導者養成プログラム
(修士課程)・申請書

Graduate Program on Japanese Language and Culture
APPLICATION FOR ADMISSION

NC-GP

2012年度(平成24年度)用
For Fiscal 2012-2013

国際交流基金

申請書は国際交流基金(以下「基金」という。)の海外拠点又は在外公館に提出してください。台湾在住の方は(財)交流協会の台北事務所に提出してください。基金本部・附属機関では海外からの申請を受け付けません。また、海外拠点又は在外公館に申請する旨を事前に連絡していない場合は、申請書を提出しても無効となることがあります。インターネットやメールによる申請書の提出は受け付けません。なお、申請書に記入される個人情報の利用目的については、申請要領の「13. 個人情報の取扱い」をご覧ください。
Applications should be submitted to the Japan Foundation office in your country, or, if the Japan Foundation has no office in your country, the nearest diplomatic mission of Japan. In Taiwan, applications must be submitted to the Interchange Association, Japan, Taipei office. The Japan Foundation Headquarters in Tokyo does not accept applications from overseas applicants. It is also necessary that you contact the overseas agency mentioned above to inform them of your planning to apply in advance of submitting your application. We do not accept applications through the Internet or by e-mail. With regard to the purpose of use of personal information entered in the application, please see "13. Personal Information" in the Program Application Instructions.

カラー写真
Color Photograph
裏面に氏名記入
Your name on the
opposite side of the
photograph
3か月以内に撮影のもの
Taken within three
months of the time of
application

申請者: 申請者本人が記入のこと。The following form should be filled in by the applicant. (Type or write in block letters)

1. 氏名 _____ []女
Name 姓 Family name 名 First name ミドル・ネーム Middle name Female
(ローマ字 In Roman alphabet) []男
_____ Male
(カタカナ In Katakane) 姓 Family name 名 First name ミドル・ネーム Middle name
(パスポートに記載の表記) _____
Name as written on your passport in Roman alphabet

2. 生年月日: _____ 3. 年齢(2012年4月1日現在): _____
Date of Birth Age (As of April 1, 2012)
(44歳以下の方、即ち1968年4月2日以降に生まれた方のみ
申請資格があります)
4. 国籍: _____ (Those who are 44 years old or under, who were born on or
Nationality after April 2, 1968, are eligible.)

5. 地位 / 所属機関の名称 / 住所 Present position, with the name & address of the Institution
(地位) (専任・非専任)
Position Full-time or Part-time
(機関名)
Affiliated Institution
(機関住所)
Address of Affiliated Institution

6. 連絡先住所 Contact Address: []勤務先 Affiliated Institution []自宅 Home
電話 Tel. ファックス Fax. Eメール E-Mail

電話 Tel. ファックス Fax. Eメール E-Mail

7. 取得学位 (取得見込みも含む)

Academic Degree (including expecting Degree):

学士:

BA	機関名 Name of Institution	
_____	From _____ (から)	To _____ (まで)
取得地 Location	月(Month)/年(Year)	月(Month)/年(Year)
_____	_____	
学位 Degree conferred	専攻 Major	

学問的な受賞 Scholastic honors or prize (if applicable)		

修士:

MA	機関名 Name of Institution	
_____	From _____ (から)	To _____ (まで)
取得地 Location	月(Month)/年(Year)	月(Month)/年(Year)
_____	_____	
学位 Degree conferred	専攻 Major	

学問的な受賞 Scholastic honors or prize (if applicable)		

その他:

Others	機関名 Name of Institution	
_____	From _____ (から)	To _____ (まで)
取得地 Location	月(Month)/年(Year)	月(Month)/年(Year)
_____	_____	
学位 Degree conferred	専攻 Major	

学問的な受賞 Scholastic honors or prize (if applicable)		

日本で義務教育を修了しましたか？

Did you complete your compulsory Education in Japan?

はい
Yesいいえ
No

8. あなたがお願いした推薦者 2 名

Names of the two people you have requested to write letters of recommendation:

(1) 所属機関(部門)長

_____	_____	_____
推薦者名 Name	肩書き Title	機関 Organization/Institution

(2) (1)以外の推薦者

_____	_____	_____
推薦者名 Name	肩書き Title	機関 Organization/Institution

9. 日本語学習歴

Previous Japanese language study

期間 Term	総時間 Total Hours	機関名 Institution	使用教材 Textbook
From 年(yy) 月(mm) ~ To 年(yy) 月(mm)			
From 年(yy) 月(mm) ~ To 年(yy) 月(mm)			
From 年(yy) 月(mm) ~ To 年(yy) 月(mm)			
From 年(yy) 月(mm) ~ To 年(yy) 月(mm)			

10. 日本語教授歴

Japanese language teaching experience

計 In total	年 Years	ヶ月 months	教授歴が2年未満の方は申請資格がありません Those who have at least two years of experience in teaching Japanese language are eligible
---------------	------------	--------------	--

期間 Term	機関名 Institution	対象者 Student	
		年齢 Age	レベル Level
From 年(yy) 月(mm) ~ To 年(yy) 月(mm)			
From 年(yy) 月(mm) ~ To 年(yy) 月(mm)			
From 年(yy) 月(mm) ~ To 年(yy) 月(mm)			

11. 日本語教授歴以外の職歴

Professional Experience, other than Teaching Japanese

期間 Term	雇用者(機関)名 Employer's Name	仕事の内容 Job title and description
From 年(yy) 月(mm) ~ To 年(yy) 月(mm)		
From 年(yy) 月(mm) ~ To 年(yy) 月(mm)		
From 年(yy) 月(mm) ~ To 年(yy) 月(mm)		

12. 日本滞在歴

Previous Stay in Japan

期間 Term	日数 Days	滞在目的・受けたグラント Purpose; Grants Received, if any
From 年(yy) 月(mm) ~ To 年(yy) 月(mm)		
From 年(yy) 月(mm) ~ To 年(yy) 月(mm)		
From 年(yy) 月(mm) ~ To 年(yy) 月(mm)		

13. 日本語能力に関する試験:

Japanese-Language Proficiency Test grade & scores (and the year of the test taken) or any other qualifications to show Japanese proficiency:

(その証明書の得点票もしくはコピーを添付すること Attach a genuine score sheet or its photocopy.)

- (1) JLPT 国際交流基金日本語能力試験 : 級 _____ 得点 _____
 Passing Grade Score
- 認定番号 _____ 受験年 _____
 Certificate Number Test Year
- (2) その他の試験: _____ 受験年 _____
 Others Test Year

14. 資格取得 Qualifications:

_____ (取得年 Year taken)

_____ (取得年 Year taken)

_____ (取得年 Year taken)

_____ (取得年 Year taken)

15. 受賞歴 Awards:

_____ (受賞年 Year)

_____ (受賞年 Year)

_____ (受賞年 Year)

16. 日本語教育関連の活動歴・・・日本語教育の推進について貢献があれば具体的に(例:学会、政府政策、教材開発)
 Activities on Japanese language education...Describe specifically if any contributions to promotion of Japanese language education (e.g. academic society, government policy, development of teaching materials.)

期間 Term	プロジェクト名 Project's Name	仕事の内容 Job title and description
From 年(yy) 月(mm) ~ To 年(yy) 月(mm)		
From 年(yy) 月(mm) ~ To 年(yy) 月(mm)		
From 年(yy) 月(mm) ~ To 年(yy) 月(mm)		

17. 研究業績 Research Performance:

発表年月 Date	論文題目/発表テーマ Title of Research Paper / Theme of your Presentation	掲載雑誌名/学会名 Title of Journal / Title of Academic Conference
年 月 Year Month		
年 月 Year Month		
年 月 Year Month		

日本語教育指導者養成プログラム (修士課程)
Graduate Program on Japanese Language and Culture (Master's Course)

推薦状 LETTER OF RECOMMENDATION 1

志願者名: _____
 Name of applicant 姓 Family name 名 First name ミドル・ネーム Middle Name

を政策研究大学院大学・国際交流基金日本語国際センター 日本語教育指導者養成プログラム(修士課程)の入学志願者として下記により推薦します。

I recommend above person as an applicant to the Graduate Program on Japanese Language and Culture (Master's Course) which is jointly offered by GRIPS/JLI, Urawa

推薦者へのお願い : この推薦状をご記入の上、封筒に入れ、厳封して志願者へお返してください。また、他の様式をご希望の場合は、このフォームに添付してください。

To the recommender: Please complete this form, seal in an envelope, sign across the seal and return it to the applicant. If you prefer, you may write a separate letter and attach it to this form.

採否審査及び事業評価のため、この推薦書を外部有識者等に提供することがあります。

* There may be cases in which this recommendation form is provided to outside consultants in the screening process and evaluation procedure.

推薦者: _____
 Name of person completing this form

職名: _____
 Position/Title

所属: _____
 Affiliated Institution

住所: _____
 Contact Address

ファックス: _____ e-mail: _____
 Fax number

志願者をどれくらいの期間ご存知ですか? _____ 年 _____ ヶ月
 How long have you known the applicant? Years Months

どのような関係でご存知ですか? Under what circumstances have you known the applicant?

どれくらいの頻度で志願者に会いますか? () () () ()
 How often have you observed him/her? 毎日 Daily 毎週 Weekly 毎月 Monthly たまに Rarely

同じ分野で働く他の教師/職員と比べて、志願者の学識や教授能力をどのように評価しますか?

In comparison with other teachers/staff in the same field whom you have known, how would you rate the applicant's overall scholastic or administrative ability?

- 極めて優秀 TRULY EXCEPTIONAL - One of the best you have known.....()
 大変優秀、上位5%以内 OUTSTANDING - Highest 5%.....()
 優秀、次の上位5%以内 EXCELLENT - Next highest 5%.....()
 上位10%以内には入らないが有力 GOOD - Strong ability, but not in top 10%.....()
 上位50%以内 AVERAGE - Upper 50%.....()
 上位50%以内には入らないが推薦する BELOW AVERAGE - Lower 50%, but recommended.....()
 推薦しない NOT RECOMMENDED.....()

専門分野における志願者の能力及び専門家、研究者、教育者としての将来性についてどのように評価しますか。
Describe the applicant's competence in his/her area of study, as well as the applicant's career possibilities as a professional worker, researcher or educator.

志願者の人柄、性格(交友関係の維持能力、リーダーシップ)をどのように評価しますか。
Evaluate the applicant's character and personality (such as in maintaining personal relationships with others, leadership) and describe reasons for your evaluation.

日本語教育指導者養成プログラムの候補者として、志願者をどのように評価しますか。
General recommendation: How would you evaluate the applicant as a candidate to be admitted to the Graduate Program on Japanese Language and Culture offered by GRIPS/JLI, Urawa?

- | | | | |
|-------------------------------|-------------|------------------------------------|---------|
| <input type="checkbox"/> 大変適正 | Outstanding | <input type="checkbox"/> どちらとも言えない | Average |
| <input type="checkbox"/> 適正 | Good | <input type="checkbox"/> 不適正 | Poor |

その他コメントがあれば、ご記入下さい。 Additional comments/ General recommendation, if any:

署名: _____
Signature

日付: _____
Date

日本語教育指導者養成プログラム (修士課程) Graduate Program on Japanese Language and Culture (Master's Course)

推薦状 LETTER OF RECOMMENDATION 2

志願者名: _____
Name of applicant 姓 Family name 名 First name ミドル・ネーム Middle Name

を政策研究大学院大学・国際交流基金日本語国際センター 日本語教育指導者養成プログラム(修士課程)の入学志願者として下記により推薦します。

I recommend above person as an applicant to the Graduate Program on Japanese Language and Culture (Master's Course) which is jointly offered by GRIPS/JLI, Urawa

推薦者へのお願い : この推薦状をご記入の上、封筒に入れ、厳封して志願者へお返しく下さい。また、他の様式をご希望の場合は、このフォームに添付してください。
To the recommender: Please complete this form, seal in an envelope, sign across the seal and return it to the applicant. If you prefer, you may write a separate letter and attach it to this form.

採否審査及び事業評価のため、この推薦書を外部有識者等に提供することがあります。

* There may be cases in which this recommendation form is provided to outside consultants in the screening process and evaluation procedure.

推薦者: _____
Name of person completing this form

職名: _____
Position/Title

所属: _____
Affiliated Institution

住所: _____
Contact Address

ファックス: _____ e-mail: _____
Fax number

志願者をどれくらいの期間ご存知ですか? _____ 年 _____ ヶ月
How long have you known the applicant? Years Months

どのような関係でご存知ですか? Under what circumstances have you known the applicant?

どれくらいの頻度で志願者に会いますか? () () () ()
How often have you observed him/her? 毎日 Daily 毎週 Weekly 毎月 Monthly たまに Rarely

同じ分野で働く他の教師 / 職員と比べて、志願者の学識や教授能力をどのように評価しますか?
In comparison with other teachers/staff in the same field whom you have known, how would you rate the applicant's overall scholastic or administrative ability?

- 極めて優秀 TRULY EXCEPTIONAL - One of the best you have known.....()
- 大変優秀、上位 5% 以内 OUTSTANDING - Highest 5%.....()
- 優秀、次の上位 5% 以内 EXCELLENT - Next highest 5%.....()
- 上位 10% 以内には入らないが有力 GOOD - Strong ability, but not in top 10%.....()
- 上位 50% 以内 AVERAGE - Upper 50%.....()
- 上位 50% 以内には入らないが推薦する BELOW AVERAGE - Lower 50%, but recommended.....()
- 推薦しない NOT RECOMMENDED.....()

専門分野における志願者の能力及び専門家、研究者、教育者としての将来性についてどのように評価しますか。
Describe the applicant's competence in his/her area of study, as well as the applicant's career possibilities as a professional worker, researcher or educator.

志願者の人柄、性格(交友関係の維持能力、リーダーシップ)をどのように評価しますか。
Evaluate the applicant's character and personality (such as in maintaining personal relationships with others, leadership) and describe reasons for your evaluation.

日本語教育指導者養成プログラムの候補者として、志願者をどのように評価しますか。
General recommendation: How would you evaluate the applicant as a candidate to be admitted to the Graduate Program on Japanese Language and Culture offered by GRIPS/JLI, Urawa?

- | | | | |
|-------------------------------|-------------|------------------------------------|---------|
| <input type="checkbox"/> 大変適正 | Outstanding | <input type="checkbox"/> どちらとも言えない | Average |
| <input type="checkbox"/> 適正 | Good | <input type="checkbox"/> 不適正 | Poor |

その他コメントがあれば、ご記入下さい。 Additional comments/ General recommendation, if any:

署名: _____
Signature

日付: _____
Date